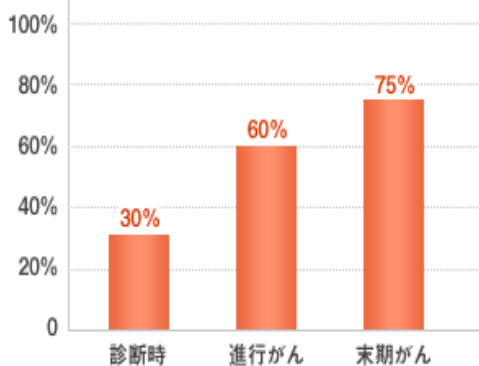




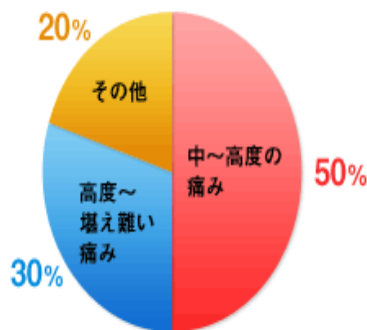
## がん性疼痛看護認定看護師の役割とは 痛みの総合的な評価と個別的ケア 薬剤の適切な使用及び疼痛緩和です

- \* 痛みはQOLを低下させる症状の一つです。
- \* がん患者の多くの方は痛みを感じており、その中でも、中等度～耐え難い痛みの強さを感じています（下の表参照）
- \* 適切に痛みの治療を行われれば、約80%の患者は痛みのコントロールが出来ると言われていいます。
- \* WHO が1986年に国際標準のがん疼痛治療法のガイドラインである『Cancer Pain Relief』を公表されて3年後、日本では経口徐放製剤としてモルヒネががん疼痛治療薬として認可されました。
- \* 現在、弱オピオイドでは、リン酸コデイン、トラマドール、強オピオイドでは、モルヒネ、オキシコドン、フェンタニル、タペンタドールなど、様々な医療用麻薬があり、患者のニーズにあった薬剤が選択できるようになりました。
- \* 薬剤だけでなく、痛みの治療では、リハビリテーションや神経ブロック、放射線療法など組み合わせて行うことで痛みを緩和させていきます。
- \* 痛みが、社会的側面、精神的側面、スピリチュアルな側面へ影響するため、患者と家族の方とコミュニケーションを図り、アセスメント・評価を繰り返し行います。
- \* 痛みには妨げられず治療が円滑に進める、また日常生活が送れるよう支援したいと思っています。

がんの進行と痛み発生の関係



がんの痛みの強さ割合



がん性疼痛緩和推進  
コンソーシアム引用

現在、緩和ケア病棟で勤務しています。緩和ケアリンクナース会に参加していますので、何か痛みのことでお困りのことがありましたら、気軽に声をかけて下さい。